

令和7年度病害虫発生予察特殊報第2号

令和7年(2025年)11月21日
山口県病害虫防除所

1 害虫名 チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* (Chou & Lu)

2 作物名 果樹全般(カンキツ、イチジク、ブルーベリー等)

3 特殊報の内容 果樹全般での発生及び加害を初確認

4 発生確認の経緯

令和7年夏以降、カンキツ、イチジク、ブルーベリー等の果樹類での確認情報が複数寄せられるようになり、9月にイチジクおよびマルベリー上で得られた雄成虫の交尾器を山口県病害虫防除所で確認し、参考文献に基づきチュウゴクアミガサハゴロモと診断した。

なお、現在、県内の農作物において本種による経済的被害は認められていない。

5 国内での発生状況

本種は中国原産で、国内では大阪府で初確認されて以降、関東以西で広く発生が確認されており、令和7年11月20日現在、22都府県で特殊報、6県で技術情報等、1県で注意報が発表されている。

6 本虫の特徴及び被害

- (1) 成虫は在来のアミガサハゴロモと外観がよく似ており、前翅長は14mm程度で前翅は茶褐色から鉄さび色、前翅前縁部中央に半円形の白斑を有する(写真1)。
- (2) 幼虫は白色で、腹部から背中にかけて白い糸状のロウ物質の毛束を広げる(写真2)。
- (3) 卵は細枝の内部に産み込まれ、表面は綿毛のような白いロウ物質で覆われる(写真3)。
- (4) 広食性で、リンゴ、ナシ、ブドウ、カンキツ、モモ、イチジク、キウイフルーツ、チャ等での寄生が報告されている。
- (5) 成虫、幼虫ともに枝に寄生、吸汁加害し、多発すると排泄物によるすす病を発症することもある。また、成虫は枝内部に傷をつけて産卵するため損傷した枝が枯死する場合がある。

7 防除対策

- (1) 本種に対して登録を有する農薬はない。
- (2) 成虫及び幼虫は見つけ次第捕殺する。
- (3) 発生源となる産卵枝を除去し、園外に持ち出して土中に埋めるなどして適切に処分する。
- (4) 防虫ネットで被覆する等で物理的に被害回避を行う。

8 参考文献

外村俊輔・大原賢二. 2024. チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977)の徳島県からの初記録. 徳島県立博物館研究報告. 34. 77-80.



写真1 成虫



写真2 幼虫



写真3 産卵痕